

元村西自治会

名物「川魚つかみ取り大会」

滝の沢砂防公園で行われる「川魚つかみ取り大会」は、砂防ダムに放たれたイワナをつかまえ、その場で焼いて食べられる元村西自治会の一大イベント。令和2年度、新型コロナウイルスの影響により中止としたが、令和3年度は感染症対策を徹底して実施。参加者により楽しんでもらえるよう鯉のぼりを飾り、手作りの顔出しパネルを用意し撮影スポットも設置。自粛生活が長引く中、地域外からもこの行事を楽しみにしていた声は多く、例年に劣らず大盛況となった。

元村西自治会設立から33年間、新しい行事を増やすことはせず、恒例行事と言えるものを毎年継続して実施してきた。その分、行事の中身を重視。参加する人の年齢層や自治会活動への関わり方、さらにはコロナ禍といった年々変化していく環境に応じて、その時々合った中身へ変化をつけていくことにした。「役員の見解を聞き、良くても悪くてもまずやってみる。もし失敗したら来年変えよう。」現会長の山火氏のこの考えのもと、コロナ禍でも自治会活動を途絶えさせないよう、役員全員でアイデアを出し合っている。

秋祭りやスポーツ大会等も感染症対策や規模を考えながら、役員が無理なくできる範囲で実施していく予定だ。



川魚つかみ取り大会

子どもと一緒に防犯活動

防犯活動については、子ども会で毎年、防犯パトロールを実施している。親子いっしょに30分程度、地域の危険箇所を確認しながら歩くというもの。これは10年前の東日本大震災以降から始めた取り組みで、毎年恒例の活動となった。その他にも青色防犯パトロールカー6台を配置し見回り活動をしている。



おそろいのベストを着てパトロール

これからの元村西自治会

これからも今まで続けてきた恒例行事を大事にし、その中でも人気のある行事をさらに中身の濃いものに進化させていきたい。こうすることで、元村西自治会の伝統行事として誇っていくことができ、さらには役員の手力を少しでも減らすことにつながるだろう。



自治会長の山火誠喜氏（取材時撮影）

元村西自治会は自然が多く、夏は子どもが川遊びをしている風景が現在も残っている。この自然を大事にして住みよい自治会にしていきたい。